

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺
慈雲会
〒604-8214
京都市中京区新町通蛸薬師下る
百足屋町3 7 5 番地
TEL (075)221-4616
zuirenji@hotmail.com
http://www.zuirenji.net/
Shinshū Ōtani-ha
Jiunzan Zuirenji
Jiunkai

慈雲



心歡喜故
應時即得
無生法忍

心（こころ）の歡喜（かんぎ）するが
ゆえに、時にすなわち無生法忍（むし
ようぼうにん）を得べし。」

【觀經】の言葉

お浄土の光景は「極妙の樂事」（前回）といわれているようにとても素晴らしい様子を私たちに示してくださいませ。それは鏡で自分の顔を見るようにはつきりと見えるものであり、日常生活も生き生きと輝いてくるのであります。その時に私たちの心に歡喜（よろこび）が生まれます。心がよるこぶ時、ただちに無生法忍の悟りを得るであろう、とお釈迦さまは言われています。無生法忍には喜忍・悟忍・信忍の三種があります。正信偈の後半に「与韋提等獲三忍」（よくだいとうぎやくさんにん）とありますが、觀經の主人公イダイケ夫人と等しく私たちも悟りをいただくことができます。それは特別な事ではなく、阿弥陀さまから願われていることを喜び・気づき・信じる心を賜るといふ事です。

蓮如上人御真影修復

本堂の内陣は極楽浄土を表現していると言われていました。その中心にはご本尊である阿弥陀如来の立像が安置されています。向かって右側には宗祖親鸞聖人の御真影がお厨子に入って掛けられています。そして向かって左側には中興の祖といわれる本願寺第八世蓮如上人の御真影が掛けられています。

この御真影は享和元年（1801年）に授与されたと裏書にあります。すでに二百年以上ずっと掛けられていましたので諸所に亀裂や擦り切れ、また経年による劣化が見られこの度修復することにいたしました。およそ一年かけて直すてもらった間、別の御真影を掛けておくことにしました。蓮如上人の御真影です。蓮如上人は第二十世です。蓮如上人（1780～1865）はその八十六年の生涯の内、東本願寺が四度火事により焼失し四度再建するという非常にご苦労された方です。再建のたびにそれまでより大きな伽藍の御堂を建て、そして何より度重なる再建事業を全国のご門徒に依頼する際に、聞法が最も大事だと教示され、詰所や総会所で毎日法話が上がっていました。



※表具屋さんが蓮如上人の御真影を下ろします。



※巻けないのでそのまま板戸に乗せて運びます。



※蓮如上人が戻られるまで蓮如上人の御真影が掛けられます。

編集後記

○十二月八日に「大谷婦人会瑞蓮寺支部」総会が瑞蓮寺でありました。その中で会員のSさんが「善財童子はん」という読み物を京ことばで朗読してくださいました。これは瑞蓮寺の町内は祇園祭の南観音山を出すのですがそのご神体が楊柳観音と善財童子なのです。これは『華嚴経』という經典に登場する物語を題材にしたとされています。本来難解な經典の言葉を町内のKさんが京ことばで子供にもわかりやすい文章に書き直してくれたのです。それをSさんの美しい京ことばで聞かせていただき、会員一同気持ちよく聞き入りました。

○ご門徒のYさんのお孫さんは小学六年生です。学校の自由研究で寺院で使われる打ち敷の刺繍について調べていて、先日瑞蓮寺にその調査に来られました。彼女の研究によると打ち敷に刺繍が施されているのは大谷派だけだそうです。また刺繍は当然高い技術を要するのですが、後継者不足が喫緊の課題でもあるそうです。来年もよろしくお願いします。